



1. 1-4b工区 礎石群 (近世)



2. 5a工区 J23号住居跡 (縄文後期)



3. 5a工区 J26号住居跡 (縄文後期)



4. 5a工区 河道 (弥生時代)

● 主な調査成果

5a 工区では、縄文時代中期後葉および後期前葉～中葉にかけての集落(居住域)が発見されています。過年度調査で見つかったものと一体の集落であり、今年度は縄文時代中期後葉の住居跡が3軒、縄文時代後期前葉～中葉の住居跡(敷石住居跡)が8軒検出されています。また、谷地形(埋没谷)の部分では、弥生時代と推定される河道(自然流路)も発見されています。河道の覆土からはトチ・クルミなどの堅果類が見つっています。

1-4b 工区では、近世(江戸時代)の礎石群が発見されました。当地には、僧慶山安楽寺という寺院があり、明治以降に廃絶されたと伝えられています。今回発見された礎石は、安楽寺の本堂の礎石と推定されます。

● 調査期間 2012年9月16日～調査中

● 事業者 中日本高速道路株式会社

● 調査原因 新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

● 時代 近世、中世、奈良・平安、古墳、弥生、縄文、旧石器

● 所在地 伊勢原市子易

● 遺跡位置 小田急小田原線伊勢原駅の北西約3.5kmの丹沢山地南東山麓および鈴川右岸段丘上

